

埼玉県納税貯蓄組合総連合会 優秀賞

私達の命と暮らしを守る税金

藤沢中学校 三年 末盛 碧

大好きな祖父母に会えなくなつて、もう一年半以上になる。新型コロナウイルスが世界中でもういを奮い、私達は今もまだその中にいる。

一年半前、休校が決まり、私達の生活は一変した。得体の知れないウイルスに、日本中が戸惑い、マスクやトイレットペーパー、消毒液がスーパーやドラッグストアから無くなり、手に入らなくなつた。早朝からマスクを購入するために行列が出来ている事がニュースにもなったりした。これからどうなってしまうのだろう、みんなが不安に思っていたその時、国から一人一枚ずつ布マスクが支給されたり、一人一律十万円の給付金が支給されたりと、私達の生命と暮らしを守るために、スピード感のある政策が次々と実行された。その財源は、税金である。その税金がどのように、何に使われているかは、政治が大きく関わっていることをコロナを通して実感することが出来た。

令和三年度の国の支出を見ると、新型コロナウイルス対策予備費として五兆円、支出全体の四・七パーセントがコロナ対策に当てられる。治療薬やワクチンの研究開発、ワクチン予防接種等に私達の税金が使われている。ワクチンを打てるのは当たり前だと思っていた私だったが、無料で打てるようになったのも税金のおかげだと母から聞き、

改めて安心して暮らすことが出来る税金の必要性和有り難みを感じることが出来た。夏休みに入って、私の分も含めて家族全員の新型コロナウイルスの接種券が届いた。一年半以上この病氣と闘い続け、今年八月には全国で二万人を超える感染者が出た。一刻も早いワクチン接種が望まれる。一人でも多くの国民がワクチン接種をすることで、感染者、重症者も減っていき、大好きな祖父母に会うことも叶う日がくるに違いない。

私は今まで、「税金」というと消費税など、とられるものというマイナスイメージが大きかったが、皮肉にも生命と暮らしをおびやかしたコロナウイルスを通して、私は税金の大切さを学ぶことが出来た。私がい物をしていた時に払った消費税が、コロナ禍を生きる私たちの生命と暮らしを守る大切な役割を果たしていることを知ることが出来た。

コロナと共に生きる生活はしばらく続きそうだが、だからこそ私たちの税金が生命と暮らしを守るために適切に使われることを強く願う。私のおこづかいで出来る、わずかな社会貢献かもしれないが、今を生きる人々、これからを生きる未来の役に立つと思うと、少し嬉しくなった。